



歴史ある建物を未来へ伝える

工学部 建築学科／日本建築史

中村 琢巳 NAKAMURA Takumi

講師、博士（工学）



1. 研究内容

民家や寺社、茶室、数寄屋などの伝統木造建築を対象とした歴史研究が専門です。

とくに、名工とうたわれた職人のモノグラフ研究、木材利用の歴史、数寄屋デザインの研究に力を入れています。

研究手法は、歴史的建造物のフィールドワークを中心に、職人への聞き取り、古文書読解などです。歴史ある建物の価値を評価する研究を基盤としながら、地域・産学連携をはかることによって、展示や冊子制作による価値の共有化、さらに保存修復や活用計画にも取り組んでいます。



2. 地域・産学連携の可能性

自治体、まちづくり団体、建築家と連携することで、地域のニーズにこたえる実践的な調査研究を心がけています。

自治体は東北各地の文化財部門を中心に連携をはかっています。文化財指定・登録のための図面制作や価値評価に加えて、建物や歴史的町並みの保存計画策定などに関する連携もあります。

歴史的建造物の保存修復については、地域の建築家と共同で調査研究に取り組むことによって、学術的な価値評価が、実践的な保存修復設計へ結びつくよう心がけています。

歴史的建造物の活用という視点では現在、文化財的価値のアピールだけでなく、観光や健康など広範囲な効果が求められています。地域まちづくり団体や異分野との連携を広げ、歴史ある建物の多様な活用の意義を考えていきたいと思います。



執筆論文

中村琢巳「歴代木村清兵衛にみる数寄屋大工の近代」家具道具室内史学会誌8号、2016.5



日本建築史、職人、民家、数寄屋、歴史的建造物